

令和8年7月10日

火災及び救急等の発生状況について



向島消防署・本所消防署

目 次

- 1 火災発生状況（令和8年中）・・・・・・・・ P.1
 - （1）火災件数・焼損床面積・死者数・傷者数
 - （2）住宅火災による高齢者の死者発生状況
 - （3）住宅火災における出火原因別の死者発生状況
- 2 救急件数（令和8年中）・・・・・・・・ P.3
 - （1）救急出場件数及び搬送人員
 - （2）救急事故種別件数
 - （3）程度別搬送人員
- 3 熱中症予防対策・・・・・・・・ P.4
- 4 リチウムイオン電池関連火災・・・・ P.5
- 5 感震ブレーカー設置について・・・・ P.6～7

1 火災発生状況（令和8年中）

（令和8年6月22日現在 速報値）

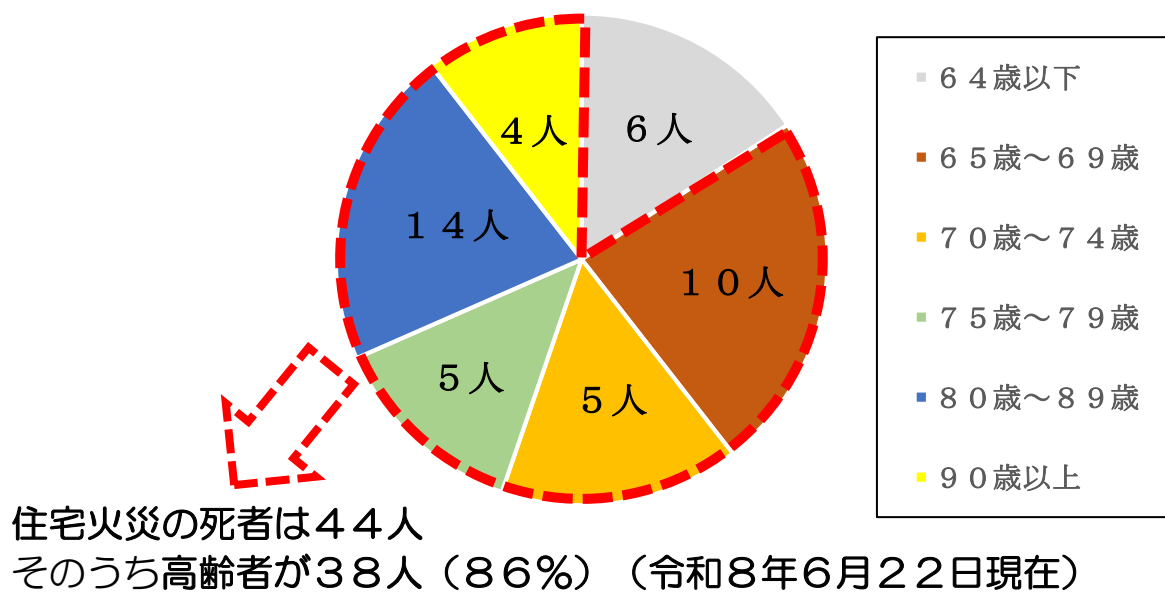
（1） 火災件数・焼損床面積・死者数・傷者数

※（ ）は前年比を示します

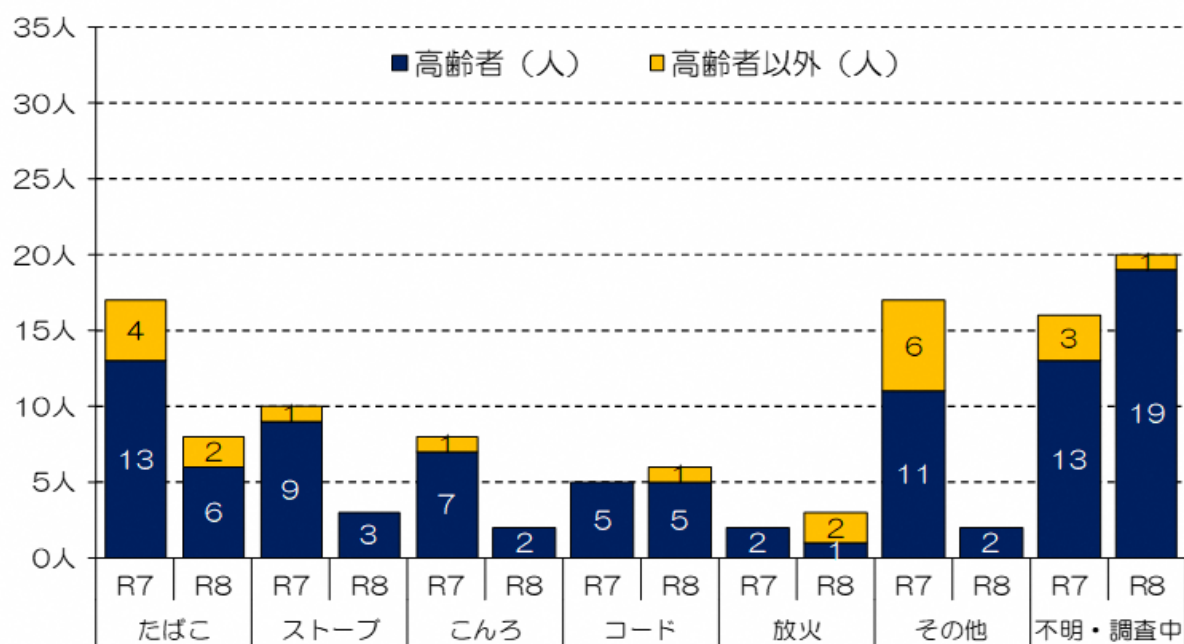
	火災件数(件)	焼損床面積(m ²)	傷者(人)	死者(人)
東京消防庁管内	2、734 (+227)	9,462 (-556)	430 (-20)	49 (+5)
墨田区合計	50 (+1)	63 (-129)	8 (+2)	1 (+1)
本所消防署管内	27 (+1)	0 (-54)	3 (+2)	0 (±0)
向島消防署管内	23 (±0)	63 (-75)	5 (±0)	1 (+1)

（2） 住宅火災による高齢者の死者発生状況

東京消防庁管内



(3) 住宅火災における出火原因別の死者発生状況（東京消防庁管内）



出火原因別死者発生状況（令和8年6月22日現在）

「たばこ」、「コード」、「ストーブ」「こんろ」等が出火原因の発生状況として多くなっています。

令和8年6月22日（月）現在、墨田区内の死者は向島管内で1名発生しています。



2 救急件数（令和8年中）

（１） 救急出場件数及び搬送人員（令和8年6月22日速報値）

※（ ）は前年比を示します

	出場件数	搬送人員
東京消防庁管内	435,935件 (+7,067)	376,341人 (+9,293)

（２） 救急事故種別件数（令和8年6月22日速報値）

	急病	一般負傷	交通事故	その他
東京消防庁管内	294,596件	80,124件	18,289件	42,926件

（３） 程度別搬送人員（令和8年1月31日速報値 向島消防署作成）

	軽症	中等症	重症以上
東京消防庁管内	36,665人	29,473人	5,703人

救急搬送された方の51パーセントが軽症となっています。

重症以上	死亡：	初診時に死亡が確認されたもの
	重篤：	生命の危険が切迫しているもの
	重症：	生命の危険が強いと認められるもの
	中等症：	生命の危険はないが入院を要するもの
	軽症：	軽易で入院を要しないもの

3 熱中症予防対策

令和7年は過去最多となる9,203名（※）の方が熱中症で救急搬送されました。**熱中症から命を守る行動**をお願いします。

※東京消防管内、令和7年6月から9月末までの4か月間の数値

屋外では・・・

- ▶ 帽子や日傘を使いましょう。
- ▶ 日陰を選んで歩きましょう。
- ▶ こまめに休憩をしましょう。



屋内では・・・

- ▶ 扇風機やエアコンを使用しましょう。
- ▶ ブラインドやすだれで直射日光を遮りましょう。

対策2 水分補給は計画的、かつ、こまめにする。

- ▶ のどが渇く前に、こまめに水分補給をしましょう。特に高齢者は注意しましょう。
- ▶ 起床時、入浴前後にも水分を補給しましょう。
- ▶ 大量の汗をかいた時は塩分も補給しましょう。



対策3 運動時などは計画的な休憩をする。

- ▶ スポーツを行う人はもちろん、指導者等も熱中症について理解しましょう。
- ▶ 大量の発汗があった場合は、スポーツドリンクなどを摂取しましょう。
- ▶ 応援や観戦などでも熱中症が発生しています。水分をしっかりと補給し、注意を怠らないようにしましょう。



熱中症のポイント

- ▶ 地面に近いほど輻射熱は高くなります。
- ▶ 子供は大人の想像以上に輻射熱等の影響を受けていると考えましょう。
- ▶ 子供を車の中で決して一人にしないでください。



4 リチウムイオン電池関連火災

リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池を搭載した製品から出火した火災のことをいいます。



5 感震ブレーカー設置について

震度5強相当の地震を感知し電気を自動で遮断します。感震ブレーカーを設置して出火による被害を防ぎましょう。

阪神・淡路大震災や東日本大震災では約6割が電気火災でした。

地震発生時、
建物火災の原因 約6割は、
電気による出火です

震度5強相当の地震を感知し、電気を自動で遮断

カン シン
感震
ブレーカー
設置していますか?

 東京都

感震ブレーカーの設置とあわせて実施しましょう

地震による火災の防止に有効な対策

初期消火対策

✓消火器の設置 ✓風呂水の汲み置き など

住宅用火災警報器の設置（10年を目安に本体交換）

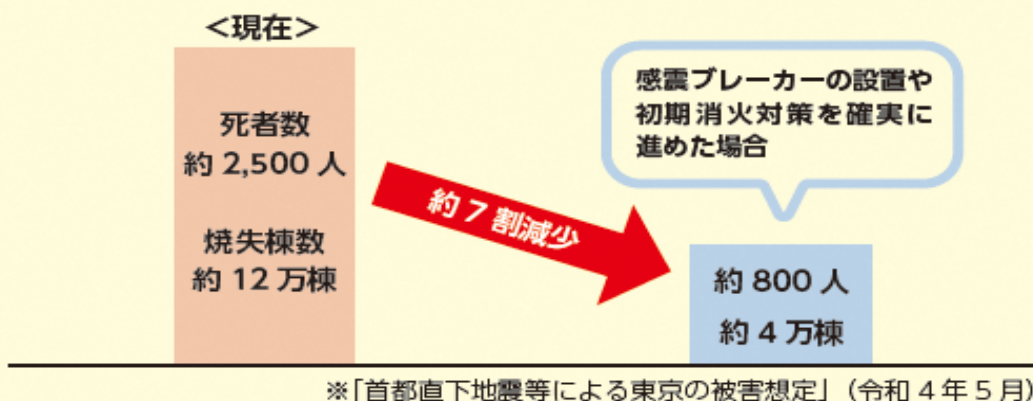
機器類の定期的な作動性能の確認や部品などの交換

家具類の転倒・落下・移動防止対策



今後さらに感震ブレーカーの設置を進め、消火器の設置などの初期消火対策も進めることで、地震による火災の被害を約7割減少させることが可能と東京都では推計しています。

地震による火災の被害想定



出火防止対策や初期消火対策等を実施して、いざという時に備えましょう。

登録番号(6)21

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。